令和８年6月
第257号

かけはし

ケアハウスあじさい園

URL: http://www.ajisaien.or.jp/

「たったひとつの愛で生き残ることもある」

奈良１００年会館満員御礼の小椋佳さんのコンサートのご報告です。

まずは代表作の「俺たちの旅」。中村雅俊主演の「俺たちの旅」は、その時代の生き方ばかりが生き方じゃないと反骨を示し共感を受け、そんな青春時代を思い出すことは大切なこと、と感じながら歌っておられるとのこと。

70歳の時、生前葬コンサートをＮＨＫホールで盛大に行い、思い残すことはないと終止符。ところが、その後も毎年コンサートを開き、1月には82歳、筋力体力もどんどん弱り、歯も先々月1本、先月1本抜け、来週歯科医院の予約をしているらしく「歯なしのまま、はなしをします」と大笑い。

何をするのもしんどくて、朝目覚めると「あー今日も生きなきゃ」と、コンサートも命がけ「途中倒れたらごめんなさい」と。

26年半銀行のサラリーマンを経験、ニュージャージー州への出張では外国のインベストメントバンカーを学び論文を仕上げることと東京のテレビドラマの主題歌を仕上げることが任務。アメリカらしい生活に憧れ一軒家を借り、家主からは熱帯魚の水槽だけをただ見守ってくれさえすれば良いと言われた。しかし異常事態がおき、水槽にタニシが数千匹発生、お箸で一匹ずつつまみ出し水をかえ大忙しとなった。論文と主題歌とタニシと・・・。その時できた主題歌は「めまい」と大笑い。

中学、高校～と青春時代は人生の意味とは？真実とは？神とは？どうして生きていくか？それを言葉で考え、言葉を使って真相を確かめようとしたが答えは出せないままつらく過ぎていった。若い頃の歌の終わりは疑問符だったが、今はピリオドになった、しかし、いまだに人生をどうすれば良いか迷うこともあるそう。

大好きなお孫さんは10歳の野球少年、「どこ守ってるの？」と問うと明るく元気に「ベンチ！」と。「いい奴だなぁ」と嬉しそう。今の時代は個人個人のそれぞれの考えを大事にし、流されず生きようとしている、これは良かったと感じている、と。

全15曲。82歳の小椋佳さんの自然な生きざまに心打たれ、純粋に素直に生き抜くことを学んだ。最後は、期待と祈りと感謝を込めて「さようなら」、このひと言で締めくくられた。

目の前の小椋佳さんに心から感謝し、感動の涙と笑いで大満足でした。

6月行事予定

7(日)　いどばた会
12(金)　訪問理美容
25(木)　食事会

お誕生日
おめでとうございます

A　様（83歳）
B　様（76歳）

5月３日（日）いどばた会（端午の節句）